

うしろからうむを言はせず秋の暮

藤田湘子

秋の暮はもの寂しい。特に秋のはじめ。「秋来ぬと目にはさやかに見えねども風の音にぞおどろかれぬる」という、あの頃。「ああ、淋しい秋がやってくる」と思わず溜息をついてしまう。

しかし、秋の暮はいい。雲も夕焼けも美しい。物思う静かさもいい。問題は、そんな風にゆつたりと楽しめないう状況にある時。驚くほど早くがっかりと日が落ち、つるべ落としの実感に見舞われる時。まさにこの句のように「うむを言はせず」暮れてしまうのだ。

そして、気が付けばあつという間に太陽も消え夕焼けも終わっている。後ろから誰かに追い立てられるような心もとなさであるが、作者はその強引さも好んでいる。

1999年(五二作) 第十一句集『てんてん』 鑑賞・野本京